

西伊豆健育会病院 看護部 3階病棟 外岡 明香梨

功 績	関連施設でクラスターが発生し、施設看護師長も陽性となってしまった際、施設への派遣を快く引き受け、連日夜勤業務をおこない施設の危機回避に大きく貢献した功績。
推 薦 者	3階看護師長 磯谷 里佐
推 薦 理 由	外岡は地元出身の2年目の看護師です。関連施設で新型コロナのクラスターが発生した際、感染のリスクがある中、派遣を快く引き受け夜勤業務を黙々とおこなってくれました。働ける看護師がいない状況で使命感あふれる行動を見せてくれた外岡を理事長賞に推薦致します。

内 容

外岡は健育会からの奨学金を受け、入職して2年になる看護師です。今年度プリセプターが外れ、独り立ちした1年目で業務はこなせるようになってきていましたが、本人は1つ1つの知識や技術に自信が持てず不安を抱えているように見受けられました。

そのような中、今年度は新型コロナウイルスの流行があり、その猛威は伊豆半島にまで及び、当院関連施設でもある介護老人保健施設でもクラスターが発生してしまいました。介護施設の看護師は絶対数が少なく、濃厚接触や感染疑いによる出勤停止で、発生当初から働ける看護師が2名のみという状況に陥ってしまっていました。このグループ施設のピンチに、当院からは感染委員会の委員長である医師と2階の看護師長を発生3日目から派遣し、看護師長は日勤業務、感染防止のアドバイス、施設ご利用者さんのケアなど施設のサポートにあたっていました。

そのような中、感染拡大が収まりつつあった2月初旬に、介護施設の看護師長の陽性が判明し、当院から派遣した看護師長を含めても施設の看護師が2名となってしまいました。夜勤の看護業務がまわらない状況となったため、ディレクター・看護部長より3階から勤看護師1名の派遣をできないか打診されました。当階の看護師は夜勤ができないスタッフや小さな子供がいるスタッフ、同居者が多いスタッフなど2次感染が懸念される状況のスタッフが多く、派遣は難しいと考えていましたが、スタッフへ打診したところ外岡は「私は大丈夫です。頑張ってきます。」と快く引き受けてくれました。その当日から夜勤に入った外岡は、施設の看護スタッフが戻るまでの6日間施設の夜勤を連日務めてくれました。潜伏期間を自宅アパートで過ごし復帰した際には、全体朝礼で防護具着脱方法のアドバイスをするなど、自信に満ち溢れた表情で一回り成長した姿を見せてくれました。

今回、施設で働ける看護師がいなくなった状況を知り、派遣を快く引き受けた使命感に満ちた行動で、関連施設の運営を支えてくれた外岡を理事長賞に推薦します。